

品質保証検討グループ
2007年度 第1回会合 議事録 (案)

日 時 : 2008年3月21日 (金) 14:00~17:00
場 所 : 東京工業大学原子炉工学研究所北2号館6階会議室
出席者 : 中島 (京大炉)、上松 (東芝)、須山、奥村、石川、柴田 (JAEA)、山野 (東工大)
以上7名 (敬称略・順不同)

配布資料:

0. 前回会合議事録 (案)
1. JENDL の品質保証のあり方 (提言) (案) (山野委員)

議 事 :

1. 前回会合議事録 (案) の確認がなされた。
2. 山野委員より資料1に基づき、JENDL の品質保証のあり方 (提言) (案) について説明があり、内容について検討・議論が行われた。
 - ・ JENDL の品質保証のあり方に関して核データ評価研究グループに提言を行う。
 - ・ 目標、対象組織、適用範囲、品質マネジメントシステム (QMS) の構築と運用を提言する。
 - ・ 品質マニュアルに記載すべき内容として、品質方針、品質目標、適用範囲、プロセスおよびプロセス・プロセス間の相互関係、QMS の PDCA サイクルにおける内部監査、不適合対応、継続的改善を含めた提言を行う。記録および記録管理の手順についても提言をまとめる。
3. 石川委員より、積分検証用の炉心ベンチマークデータには、公開できない資料がある。公開されたものだけに限定するのは問題があるとのコメントがあり、検討議論した。透明性と追跡可能性 (トレーサビリティ) を考慮すると、公開資料や公開データが理想的ではあるが、ベンチマーク問題化した時の詳細データなど、可能なものは、参考資料として関連性について記録管理することとする。非公開の参考資料そのものは公開する必要はない。
4. 奥村委員より、評価プロセスやベンチマーク計算データなどをすべて公開するのは、研究者のノウハウを取られるのではないかと危惧が述べられた。基本的には採用したデータや手法について、現在の MF-1 のコメントファイルにも記載されているものが多い。ノウハウに関わるすべての情報を記載できるわけではないし、逆に隠すことが得策とも思えない。透明性と追跡可能性 (トレーサビリティ) の観点からも、知識の伝承の観点からも、事実 (Fact) は記載すべきである。膨大な知識データベースはいたずらに一般公開するのではなく、JAEA がきちんと管理すればよい。公開請求があれば、その時点での公開の諾否を JAEA が留保することで、ノウハウがみだりに漏洩することはない。
5. 内部監査や継続的改善など、組織体制について JENDL-4 では時間的制約等のため実現できないのではないかと意見があった。これに関しては、本提言は JENDL-4 を直接的なターゲットとしたものではなく、今後の JENDL の品質保証に関する提言である。組織体制等の充実については、本提言を受けて JAEA 内部で検討し可能なものから順次実現すべきものである。次の中期計画で考慮することも視野に入れてはどうかとの結論となった。
6. 欠席の委員には、本提言案を品質保証検討メーリングリストに流したので、意見やコメントを求め、本メーリングリストでさらに検討議論することとした。意見・コメントは3月末を一応

の締め切りとするが、4月末までは意見聴取を行い、平成20年度の早い時期に提言をまとめることで意見の一致が得られた。意見交換は本メーリングリストを用いて行うこととした。

7. 柴田委員より、平成20年度も本検討グループを継続する予定であることが説明され、19年度委員は継続して提言案の検討および策定を実施することとした。

(参考) Aグループ：吉田、瑞慶覧、柴田、岩本

B,Cグループ：山野、中島、上松、田原、須山、奥村、石川

次回予定：未定

次回予定議題：JENDLの品質保証のあり方（提言案）の策定。
その他

以上